

②共産主義に懐疑的、いや脅威を感じ、反対しなければならないと考える人たち。主に軍人です。約7年間の占領期間中のほとんどの部分で、前者①のイニシアチブがあったと言えるんですね。

GHQは、カナダ人の日本研究者ハーバート・ノーマン（1909-1957）をヘッドハンティングで迎え入れました。彼は非常に変わった人でした。

軽井沢で生まれて17歳まで日本で育ったので日本語ペラペラです。お父さんはメソジスト教会の宣教師。でも、親が宣教師だから息子も自動的にクリスチャンになる、わけではありません。

彼はトロント大学、ケンブリッジ大学、ハーバード大学に進んで行きますが、彼の研究の最重要項目は日本史の研究でした。日本語文献をスラスラ読めることは、非常に大きな武器だったのです。カナダでは若くして、日本研究の第一人者として非常に脚光を浴びている。それで、GHQがヘッドハンティングしたんですね。

マッカーサーと昭和天皇が会談する時も彼が通訳をするのですが、1つ問題がありました。ケンブリッジ大学に行っている時、彼はイギリス共産党に入党してるんです。イギリスの国内諜報組織MI5（エムアイ5）の資料によると、彼はソ連のスパイです。そういったことは全くおくびにも出さず、GHQの一員として入って行きました。しかし、GHQ内での彼の活動はどう見ても共産党寄り。7年間の占領期間中、戦前のすべての政党活動は出来ないのですが、共産党には許可を出しているんです。

この彼が人選して、GHQが最初にやった強烈的な政策が公職追放令です。戦時中政府に協力し、国家に仕えた要職の人たちを、あらゆるジャンルから、一定の割合で社会から追放したんですね。その数20万人以上ですよ。

追放された人の中には、実業家の松下幸之助（まつした こうのすけ/1894-1989）さんもいました。松下幸之助さんは今のパナソニックの創業者ですよ。「民間人の実業家が、なんで首切られるの?」「戦時中、日本政府に協力したから。」彼は実業家なので早く戻ることができましたが、民間の企業家であっても、GHQから「コイツ、怪しい」とレッテル張られたら首切られるんです。そんな状況の中、日本の大企業で労働組合の力がどんどん強くなって行ったのですが、その土壌を作ったのはGHQだったんですね。

ところが、実業界よりももっと深刻な業界がありました。教育界です。特に帝国大学ですよ。帝国大学には、確たる見識を持っている立派な教授たちが戦時中もいたのですが、みな公職追放令で役職を奪われ、大学から追放されたんです。

その空いた席を穴埋めしたのは、戦時中、左翼運動や共産主義にかぶれているということで投獄されていた、いわゆる共産主義の考え方を持っている教授陣。彼らがドサッと帝国大学に入って学長や要職に就く。教授になる。教授が引退する時は、その席を弟子にバトンタッチする。左翼の教授の弟子は左翼の教授なんです。

戦後 私立大学もたくさん出来ますが、やはり公職追放を免れた人たちが行くわけですね。つまり、左翼の考え方、マルクス・レーニン主義の考え方を持つ学者たちが、そういうところにドンドン入って行く。

これによって、日本の教育界はマルクス・レーニン主義、真っ赤に染め上げられてしまうことが起こりました。

そして、教育界と並んで、更に酷くなったのがマスコミだったんですね。
マスコミといっても、終戦直後なのでテレビはありません。ラジオと新聞が報道機関のすべてです。GHQは、好きに自由に報道させることは一切しませんでした。検閲をやったんですね。もちろん戦時中も検閲はありましたが、それよりももっと酷かったんです。

戦時中は、当局が思わしくないという文書の場合、伏字（ふせじ）と言って、XX/●●/▲▲で特定の単語を読めないように伏せて、その文書を隠しました。
GHQがやった検閲は、1つでも気に入らん単語や文章があったら全部やり直しさせたんです。

しかし、紙はまだ配給制で貴重だったんですね。原稿が出来ても、ちょっとでも引っかかったら全部回収しなければならない。これ、発行したくても出来なくなりますよ。
そういうことで、戦前の出版・放送関係者はみんな追放され、代わりに、検閲に迎合するような、ある意味左翼思想の人たちがどんどんどんどんマスコミの中に入って来る、ということになってしまったんです。

ところで、ポツダム宣言、読んだことありますか。こんなん読む人って、あまりいないと思うんですけど。連合軍が日本に突き付けた最後通牒・降伏文書ですよ。
全13か条で出来てますが、その6か条の一部を読みます。

『日本国国民を欺瞞し之をして世界征服の拳に出づるの過誤を犯さしめたる者の権力及勢力は、永久に除去せられざるべからず。』

『日本は、日本国民を欺いて世界征服に乗り出す過ちを犯させた勢力を永久に除去する。』

つまり『戦前の日本は世界征服を目論む悪の帝国であった。その戦前の日本政府に協力した人間は世界征服を目論む一員であった。このような悪の化身たちは永久に除去されなければならない。』
ポツダム宣言。「日本は世界征服を目論む悪の帝国である」ことを前提に書かれている文章なんですよね。

このポツダム宣言に基いて、戦時中 国家に協力した人たちはみんな飛ばされてしまいました。
代わりに、左翼思想を持っている人たちがマスコミ関係に乗り込んで来たということです。

なぜ日本のマスコミは左傾化して反日的なのでしょう。か。
経営者をはじめ、上層部・中間管理職・下々に至るまで、親共産主義・反保守・反米でスタートし、その伝統を今に至るまで受け継いでいるからだ、ということなんです。

今回は、日本のマスコミ界で摘発された大規模スパイ事件についてご紹介します。
よろしければ、またお付き合いください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。
皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！